

当科の特徴と取り組み

日本大学医学部附属板橋病院放射線診断科 岡田真広

日本大学医学部附属病院（板橋病院）放射線診断科は、CT や MR のような画像診断、Interventional Radiology (IVR)を担当しています。画像診断、IVR ならびに放射線治療は、全ての診療科や患者様をサポートする仕事であり、高度で先進的な医療を提供するために欠かすことのできない領域です。病院にこられる患者の利便性を高めることも重要視しており、検査枠の拡充、検査開始時間を早めるなどの改善をしているところです。

当院では 2021 年の夏に CT3 台、MR2 台、IVR 装置（Angiography 装置）2 台の更新をいたしました。放射線科で用いる画像診断装置は、コンピュータ技術の進化と共に発展しており、また最近では人工知能（AI）技術を利用してノイズを低減した（きれいな）画像も得られるようになってきており、毎年進化している状況です。整形外科領域や小児領域など専門的な読影も必要と考えており、専門性の高い読影も可能な体制構築を整えつつあります。

図 1 に示す画像は当院に導入されている CT 装置で Philips 社製の IQon Elite Spectral CT です。CT 撮影後に様々な画像出力を可能とし、患者の生理的な変化（たとえば肺血流の画像化など）も詳細にわかるようになりました。図 2 は肺の血流を Perfusion map で示したのですが、さらに定量的血流解析を行い、患者の治療効果判定にも用いることができるようになりました。このように大学病院としての特徴をふまえながら、患者さまに最適な治療をうけていただけるように各科のサポートをしているところです。



图 1

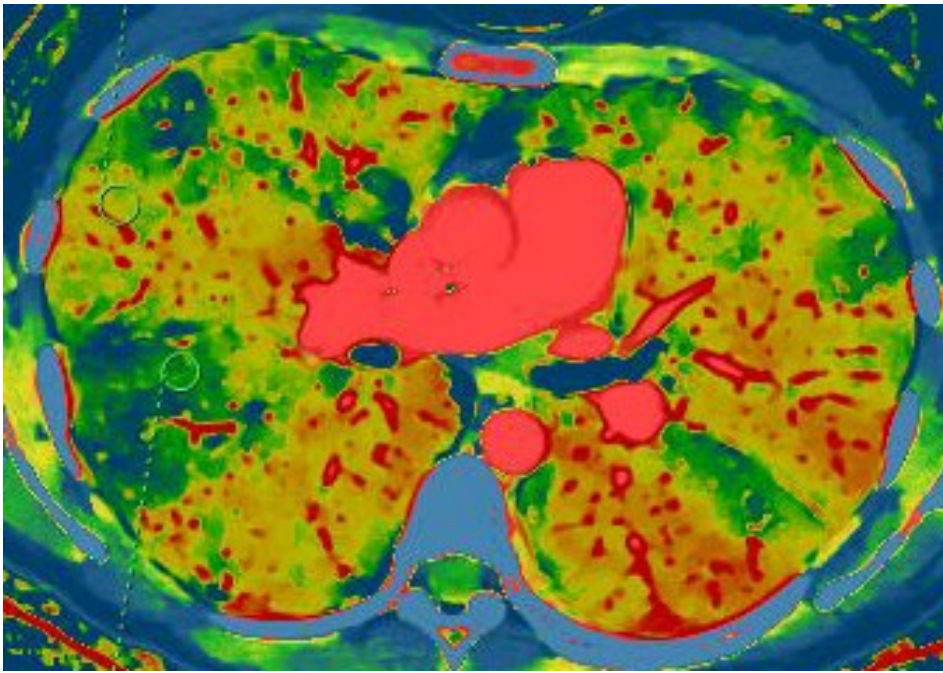


图 2